

春日野道商店街・小野中道商店街跡



春日野道商店街
 戦前、旧葺合区域には春日野道商店街と小野中道商店街という二つの大きな商店街があった。今でも残る春日野道商店街は、その昔「西の新開地に、東の春日野道」とはやされたよき時代があったが、この商店街ができたのは大正年間である。一方、今はなき小野中道商店街は生田川の西、小野柄通と御幸通の間の道（今は大小のビルが林立する）にあった神戸市屈指の商店街で、明治の末頃に出来た。阪神と市電には含まれるという好条件も重なって、正午から夜の 10 時頃まで人通りが絶えなかったという。しかし、こうした小野中道商店街も 1945（昭和 20）年の空襲ですべてが焼かれ、戦後は復活の機会を失い、幻の商店街となってしまった。



小野中道商店街跡

● 「真砂通（まさごどおり）」の由来

真砂とは細かい砂のことで、かつてこのあたりは美しい細かな砂が広がっていた海岸であったところから名付けられたというが、定かではない。

● 「北本町通（きたほんまちどおり）・南本町通（みなみほんまちどおり）」の由来

両町の境を東西に走る道がかつての西国街道の浜街道で、その街道の北を北本町通、南を南本町通と名付けた。

● 「吾妻通（あづまどおり）」の由来

周辺の旭、雲井、東雲、八雲、日暮といった地名と照応させ、こうした地域の東部というところから付けられたという。一説にはこの地区の道路整備を吾妻組が担当したことから付けられたともいうが定かではない。